

(様式6-3)

研修等 報告書

令和2年 4月 16日

三田市議会議長 福田秀章 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	無会派	代表者	印
		議員名	
参加者氏名	小山裕久		
講演会等研修名	・役所を動かす質問のしかた		
研修事項	・あなたの知らない議会のチカラ ・大学の先生ではわからない実務的な質問の仕方		
日 時	令和2年3月29日(日)10時～30日(月)16時30分		
場 所	福岡市博多区博多駅東1丁目16-14		
所 見	別紙に記載		
添付資料	・あなたの知らない議会のチカラ ・大学の先生ではわからない実務的な質問の仕方 ・当日の写真		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

令和2年3月30日月曜日 福岡市で行われました、役所を動かす質問のしかた

・あなたの知らない議会のチカラ ・大学の先生ではわからない実務的な質問の仕方

の研修会に参加しましたので、以下所見を述べさせていただきます。

講師の川本達志氏は、1980年に広島県庁入庁後、2005年に広島県廿日市に分権政策部長として採用され、同市副市長を歴任され、株式会社野村総合研究所勤務し様々なコンサルタントなどをされている。

主な内容として、議員力、議会と執行部の関係、二元代表制の本来の在り方について、詳しく講義をされ、議員力は何のためにつけるのかでは、議会は、提案を受ける場ではなく、政策を決める場であり、議会が政策のマネジメントサイクルを独自に回し政策を実現する事が必要であると述べられていた。

議会が機関として政策的意思を持つためには、議会の権限についてもしっかりとした、知識をもつ事が必要であり、議会としての意識がまとまれば、執行部は無視できなく、議会が政策をリードすることができる、それは逆に言えば、議会としても政策執行についてはしっかりとした責任を持つことが必要と感じました。

今回の研修をうけ、議員として政策を提案し実現するには、私は三田市の現状把握のための住民からの聞き取りを重視し、議員での強みとして住民との多様なコミュニケーションをもち、住民の本音を聞き、議会の権限をしっかりと行使し今まで以上に三田市に対し効果のする政策実現が出来るよう努力しなければいけないと思うところです。

以上

何故、大学教授の質問の仕方研修を受けても、市役所に響かないか？

これまで地方議員5000人に話してきた「地方議員のための役所を動かす質問の仕方」著者で、元財政課職員、元副市長の実務家セミナー

役所を動かす 質問のしかた in博多

3/30
【月曜日】

10:00～12:30

あなたの知らない議会のチカラ

- ・執行部が怖い議会の権限
- ・議案に反対したことがありますか？
- ・質疑、質問、討論の効用
- ・市長、副市長、職員とのつきあい方

14:30～16:30

大学の先生ではわからない実務的な質問の仕方

- ・成果を出すための段取り
- ・課題認識と共有の重要性
- ・どのように質問を組み立てると役所に響くのか？

3/31
【火曜日】

10:00～12:30

私がうなった質問はこれだ!!

- ・よい質問の絶対要件3つ
- ・検討しますへの切り返ししかた
- ・政策提言型の質問は、こうすると役所は考えざるを得なくなります

14:30～16:30

元副市長が考える財政関連質問のポイント

- ・事業が予算になるまでのスケジュールをおさえる
- ・地方交付税と臨時財政対策債のおさらい
- ・経常収支比率と一般財源の考え方
- ・人口減少時代の財政関連質問のポイント



講師ご紹介

かわもと たつし
川本 達志
元・廿日市市副市長

1956年広島県生まれ。九州大学法学部卒。広島県庁において、公務員労務、基礎自治体の行財政指導、契約法務、県財政の健全化計画の策定などに従事。2005年4月に広島県廿日市市に移り、分権政策部長を経て2008年1月副市長就任。市の行政経営システム改革、中期財政運営方針の策定、廿日市市協働によるまちづくり基本条例策定などにあたる。副市長在職中に広島県立大学大学院修了。2011年12月退職。2012年3月から株式会社野村総合研究所 上級コンサルタント。2014年4月に独立。
著書に「地方議員のための役所を動かす質問のしかた」(2017.7 学陽書房)

